

## 令和3年度 第2回八幡地域協議会会議録（概要版）

日 時 令和3年6月29日（火）午後1時30分～午後3時10分  
場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室  
出席者 9名  
1号委員 阿部 誠子 池田満好 信夫 効次 土井 隆博  
池田 修 小松久美子 佐々木 アキ  
2号委員 小松幸雄 高橋 知美  
欠席者 4名  
1号委員 井上 誠 池田 香 後藤俊一 荒生 明美

八幡総合支所 支所長 平井 雅史、支所長補佐 阿曾 敏  
まちづくり推進課 課長 長尾 和弘、課長補佐 松永 隆、池田一穂、讃岐祐香

議事日程 1 開 会  
2 会議録署名委員の選出  
3 会長あいさつ  
4 報 告  
（1）過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の施行に伴う  
本市過疎地域持続的発展計画の策定について（まちづくり推進課）  
5 その他  
6 閉 会

### 【協議の概略及びその結果】

今回は、新しい『過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の施行に伴う過疎地域持続的発展計画』の策定方法について、まちづくり推進課より説明があった。

その後、新過疎計画に掲載すべき事柄等について、各委員から意協議見を伺い、その内容等も含めて策定する『新過疎計画』を次回に協議会において示すことと、その新計画を地域協議会において承認作業を行うこととなった。

また、次回の協議会では各委員から出された案件について、協議を行うこととなった。

### 1 開 会

○高橋副会長開会 委員4名の欠席を報告

### 2 会議録署名人指名

○副会長 今期の協議会では、委員名簿順に指名しているので、今回は、2番 阿部誠子委

員にお願いする。

### 3 会長あいさつ

#### ○会長あいさつ

### 4 報 告

○議長 「(1) 過疎地域の持続的発展支援に関する特別措置法の施行に伴う本市過疎地域持続的発展計画の策定について」

＜ まちづくり推進課 説明 ＞

○議長 6 地域の持続的発展のための基本目標の中で、各章各分野においても個別目標を設定とあるが、どうゆう意味か。

○まちづくり推進課 この項目では、数値目標を設定しなさいということ。その設定した目標がどのように進捗しているか、どのような場所で評価してもらうのかということ、7 計画の達成状況の評価に関する事項で、設定しなさいという指導となっている。今考えているのは、ある事業の進捗状況について、どのようになっているかを地域協議会の場で発表して評価してもらうということを考えている。

○信夫委員 各分野の数値目標を設定するというのは、12 項目すべてに設定するのか。項目によっては設定することが困難なものもあると思う。また、酒田市全体としての目標なのか、それとも八幡・松山・平田の3 地区ごとの目標になるのか。

○まちづくり推進課 3 地域ごとに目標設定することは考えていない。代表的に数値を各分野での目標として設定するように考えている。数値目標を設定することが難しい項目もあると思うので、そのようなものについては国県と協議していきたい。

○信夫委員 今までの酒田市では、一度箱モノを造るとそれで終了していて、各施設の老朽化が進んでいる。この計画では改修という文字が多く出ている。やはり新しく造るよりも改修の方が安くできるので、ぜひ地域の声を聴いて、改修事業も十分に検討して計画を進めていただきたい。

○阿部委員 鳥海山がジオパークに認定されているが、何か具体的な構想はあるのか。

○支所長 ジオパークはハード面の事業は少なく、人材育成やお土産品の認定、ジオに関するPRを行うことに対する助成、自然保護に対する取り組み等のソフト面での事業が主で展開している。

○議長 やはり事業というのは、見える化が重要になってくる。みんなに見えるような形ではないと難しい。

○池田 修委員 この過疎計画を100%やったら、八幡地域が発展するかと言えばどうなのかと疑問に思う。なぜかというとはほとんどが改修や整備であり、現状維持の計画としか思えない。

○支所長 八幡が良くなるというのは、今住んでいる人たちの満足度が高くなるということ、

または、インフラ整備等が進むことと思う。今までの計画で、相当な金額を過疎債を使ってこの地域に落としている。例えば、鳥海山の整備にも使っているし、八森の整備にも使っている。このような時代の中では、現状維持もしくは地域間格差をなくすという考えの整備も必要なのではないかと思う。

○**小松久美子委員** このような計画も重要だとは思うが、地域活動している人は限られていると思う。会議をしてもいつも同じメンバーだし。みんなが自分たちの町を自分たちで作ってほしいという、何らかのきっかけも必要なのではないかと思う。

○**まちづくり推進課長** 八幡地域は、地域活動が活発な地域だと感じている。こんなことをやってみたいから少し手伝ってもらいたいとか、そのようなことから広げていくことが大切だと思う。八幡ではこうしたことをやっているから、ぜひマネしてくれというように広げてもらいたい。

○**小松幸雄委員** 日向コミセンの中で日向里かふえを皆さんと行っているが、コミセンが主体でやっているわけではなくてコミセンは足掛かりの一つと考えている。この経験を地元を持ち帰り、私たちもやりたいとなってくれることを願っている。日向里かふえが一つのきっかけになればいい。そうゆうことでコミュニティビジネスの振興に行政からもお力添えをお願いしたい。

○**池田 修委員** 移住者用に空き家を改築してそこで起業等をしてもらい、一人でも人口が増えればありがたい。空き家問題は真剣に取り組むべき課題と考える。一人世帯の方々の話を亡くなってからではなく生存している今から伺い、必要な手立てを行うことでその人もこれからの生活を安心して暮らすことができるのではないか。

○**小松幸雄委員** 今、公益大の学生が卒業後、日向地区で何かやりたいと考え、日向里かふえで働いているが、住む場所や働く場所などすべて行政がおぜん立てするのではなく、住む場所までは斡旋するけれども、働き口は自分で考えてもらい、他の人も感銘して一緒にやろうとなることが大事。そのためにも行政からの応援をお願いしたい。そのようなことを行おうという若い人の感性を大事にしていきたいと思う。行政の方からも一緒に現場を見てもらいたいと思う。

○**議長** 空き家問題については、行政と不動産屋、家屋調査士などのネットワークを作ることが大切だと思うので、行政からはその窓口的なものをしていただきたい。

○**土井委員** 現役世代が少なくなっている。30 から 40 代の夫婦に空き家の斡旋等魅力的なものがあれば良いのではないか。

○**佐々木委員** 私が小さいころは、おじいさんおばあさん達からいろいろな話を聞きながらすごしてきた。そうゆうことが今はなくなっている。みんながその地域で楽しく過ごしていけるような仕組みが大事だと思う。

○**高橋副会長** 良い意見をいただきたいといわれるが、その意見を言う窓口はどこなのか。ジオパーク然り、空き家問題等でも窓口はどこなのか常に発信していただきたい。空き家についても、移住定住者のための対策が多く、すでに住んでいる住民に対するものがないと感じる。今住んでいる住民に対しても情報を発信していただきたい。

## 5 その他

○信夫委員 過疎計画を創るときに、私たちが知りたいのは未来の数値。人口動態等過去の数値をいっぱい書かれても、じゃあ将来はどうなるのかということを知りたい。将来がこのようなになるので、どうしたらよいかということに記載するのが過疎計画だと思うので、将来の見通しを十分にしていきたい。

## 7 閉会

○高橋副会長閉会